

1. 経緯

本学の公開講座の歴史を振り返るとき、そこには地域の産業振興に密接に関連した講座開設の流れをうかがうことができる。高度成長期にある企業経営に対して、企業整備のための基礎知識を提供するとともに、革新相次ぐ電子計算機技術の講義を行うなど、その果たした役割は大きいものと言える。かかる流れは、本学が電子計算機の早期導入を基盤として、初めて北海道産業連関表作成に努力した営みの現れ的一端である。その後、学科体制が整うに従い、教養を含めた広い範囲のテーマのもとでの講座開設をみるようになった。

一方、初期段階において本学が果たしたような先端的な役割は、地域社会における講座提供の機会が増えるにしたがい相対的に低下し、十分な聴衆を確保することが比較的になくなってきている。以下、そうした流れを講座内容と受講者動員の観点から分析してみよう。

昭和62年までは、開催された講座はほぼ募集定員相当の受講者を確保することが可能であった。しかし、昭和63年を境に、テーマ形式／講演会形式の講座では、募集定員の半数に満たない受講者しか確保できず、この状態が今日まで続いている。スキー、語学のような参加形式の講座については、人気が高く募集定員を満たしていたが、一部においては、一定数の受講者を確保したにもかかわらず、募集定員そのものが大きいために、定員を満たすことができなかった講座もあった。そこで、テーマ形式／講演会形式の講座での募集人員の減少を打開するため、平成4年度に、公開講座の業務担当がそれまでの庶務係から教務委員会に移され、さらに平成6年度の公開講座から、教務委員会が企画・立案することとなる。

2. 問題の分析

昭和63年を境に、テーマ形式／講演会形式の講座で受講者を確保できなくなった原因は次のようなものが考えられる。

まず第一は、公開講座に対する社会的ニーズの相対的低下が挙げられる。すなわち、小樽、札幌管内での他のイベントへの需要が増した分、他のイベントに対する公開講座の相対的地位が低下したことが挙げられる。これは社会的嗜好の変化によるもので、積極的な対応策を見いだすことが出来ないでいる。

第二は、公開講座に対する社会的ニーズの変化に積極的に対応しなかったためと思われる。

1. 公開講座に対する社会的ニーズは、初期の実践的なものから、中期には教養的なものへと変化がみられた。そして、公開講座のテーマもそれに合致するよう一般的なものが支配的であった。しかし、社会的ニーズが多様化した現在では、一般的、教養的テーマで多数の受講者を確保するのが難しい状況となってきた。
2. 小樽管内での公開講座に対する需要の絶対数が十分でないうえ、同様の講座が札幌圏でも頻繁に開催されるようになったため、札幌圏に職場をもつ人は便利な札幌圏での公開講座を利用するに至っている。

この第二の問題点については、積極的に対処することである一定の効果のある解決案を提示できると思われる。第二の問題点のうち、社会的ニーズが多様化しているという側面がもっとも重要なように思われる。ニーズを特定化し受講者を募る、スキー講座、語学講座は、小樽管内にあっても、定員を確保できていることをみると、いわゆる不特定多数を対象にしたテーマ形式／講演会形式の講座は、社会的ニーズの多様化に対応していないと考えられる。さらにまた、不特定多数を対象とした伝統的公開講座を開催するにあたっては、一般的、教養的テーマを避け、具体的、実践的テーマを志向することで対処していくことが重要である。

3. 対 策

教務委員会では、これらの問題に対し、次の案で対処していくことを考えている。

1. 参加形式のスキー講座、語学講座等は、小樽管内でも十分需要があると思われるので、現状のまま開催していけるよう関係学科の協力を依頼する。
2. 他の参加形式の講座として、小人数の講座（コンピュータ、法律、会計関係）を企画立案し、その実行について関係学科に協力を打診していく。
3. テーマ形式／講演会形式の公開講座は、札幌圏で開催することを、しかも、札幌圏ないし札幌近郊の大学、研究機関とジョイントで開催する方向で関係学科に協力を依頼していく。
4. テーマ形式／講演会形式の公開講座は、従来の一般的、教養的テーマは避け、具体的、実践的テーマで開催できるよう関係学科に協力を依頼していく。

中長期的にはこのように考えるが、とりあえず、平成6年度の開催分については、スキー講座、語学講座等は現在そのまま開催できるよう関係学科に依頼する方針である。さらに、不特定多数を対象にしたテーマ形式／講演会形式の公開講座は、室蘭工業大学とタイアップして札幌圏での開講を目指し、さらに、より具体的テーマで開催するよう検討中である。

4. 実施状況一覧

No	年度	講座名	総時間	期間(日数)	募集人員	受講者	受講料	担当学科	講師
1	35	中小企業の労働問題	40	9/12~9/17(7)	男 50	50	225		岡本・伊藤・吉武 (文部省委嘱専門講座)
2	37	地域経済開発の方法	40	11/6~11/20(15)	100	45		経済	古瀬・竹内・地主
3	38	マーケティング	45	7/22~7/31(10)	男100	28		商業	岡本・馬場・竹内
4	39	会社計算規定	45	10/10~10/24(15)	男100 女10	男33 女2		商業	石河・実方・久野
5	40	統計理論の進歩と電子 計算機の利用	40	9/20~9/28(9)	50	89		管理	穂鷹・西川・神田
6	41	貸金管理の近代化	40	8/22~8/26(5)	50	44		商業	伊藤・石河・久野・篠崎
7	42	電子計算機セミナー	50	10/23~11/1(10)	80	73		管理	穂鷹・西川・神田・古瀬
8	43	株式会社経営の問題	40	11/8~11/16		50		商業・ 共通	実方・久野・斉藤・別府 伊藤
9	46	世界経済と日本	30	9/27~10/5(8)	80	62	750 1,300	経済	藤井・麻田・足立・増井 松田・望月・吉武
10	47	現代社会における災害 と法の役割	34	10/23~11/1(9)	80	19	750 1,800	商業・ 共通	実方・神田・斉藤・熊本 青竹・石原(全)・加藤 柏木・石原
11	48	現代に生きる古典	32	9/3~9/11(9)	60	56	750 1,000	教養	阿部・永原・目黒・脇田 松本・田中・松尾・菅原 細谷
12	49	経営システムの問題点	32	8/26~9/11(9)	60	49	750 3,000	管理・ 商業	山下・沼田・樋口・山田 伊藤・浅利
13	50	マーケティングの現代 的問題点	32	8/25~9/8(7)	60	18	750 5,000	商業	伊藤・中橋・山下・片桐 久次・石原(定)・大野
14	51	現代日本の経済的諸問 題	32	9/1~9/9(8)	男 50 女 10	29 4	1,500	経済	早見・長谷部・吉武・ 望月・藤井・麻田・久次 足立
15	52	現代に生きる古典	24	9/5~9/21(8)	60	81	1,000	教養	中川・川上・菊地・松本 目黒・脇田・細谷・小林
16	53	現代における市民生活 と法	25	8/21~9/11(10)	100	67	1,500	法学	高見・秋山・神田・飯塚 青竹・石原(定)・道幸 小原
17	55	80年代における日本 経済の展望	21	8/27~9/12(8)	100	59	1,750	経済	長谷部・吉武・藤井・ 麻田・久次・足立・早見 増井
18	56	近代社会と文化	21	8/27~9/12(8)	100	59	1,750	経済	長谷部・井上・藤口・ 結城・中川・倉田・松本
19	57	自然と文化の中の人間	17.5	10/4~10/20(7)	80	89	2,000	教養・ 法学	丸山・飯塚・山田(家) 村山・君羅・和田(完) 松本
20	58	北海道の現状と展望	17.5	7/11~7/25(7)	50	85	2,000	商業	鈴木・榎本・鶴野・林・ 小川・中・高橋(正)
21	59	市民スポーツ実技研修 ・水泳 ・トランポリン ・スキー	15 15 15	6/21~6/24(4) 9/19~9/27(6) 1/11~1/14(4)	30 20 30	14 12 34	2,500 2,500 2,500	体 体 体	杉山他外部2名 川野他外部2名 藤江他外部2名

No	年度	講座名	総時間	期間(日数)	専業人員	受講者	受講料	担当学科	講師
22	60	市民スポーツ実技研修	10	7/25~7/27(3)	25	26	2,500	体育	杉山他外部2名 川野他外部2名 藤江他外部3名
		・水泳	15	8/6~8/10(5)	20	30	2,500	体育	
		・トランポリン	12	1/12~1/14(3)	30	40	2,500	体育	
23	61	世界の思想家と文豪	14	10/27~11/12(7)	100	87	2,500	一般教育	村山他6名
		市民スポーツ実技研修	13	7/24~7/28(5)	30	19	2,500	体育	
		・水泳	15	9/29~10/3(5)	20	9	2,500	体育	
24	62	小樽の再開発と活性化	14	11/6~11/21(6)	100	103	3,000	商業	篠崎他7名+外部1名
		市民スポーツ実技研修	10	7/23~7/26(4)	30	9	3,000	体育	
		・水泳	10	8/9~8/12(4)	30	9	3,000	体育	
25	63	国際化時代の日本経済	14	9/3~9/16(7)	80	49	3,000	経済	早見他6名 倉田他6名+外部2名 藤江他外部4名
		女性と社会	14	10/26~11/1(7)	100	71	3,000	一般教育	
		スキー講座	12	1/10~1/12(3)	30	35	3,000	体育	
26	元	文学と言語	14	10/23~11/3(7)	104	48	4,120	一般教育	豊国外6名 藤江・中川外3名
		スキー講座	12	1/10~1/12(3)	60	59	4,120	体育	
27	2	消費生活と法	14	11/2~11/16(7)	130	36	4,120	経済	神田外6名 藤江・中川外5名
		スキー講座	12	1/9~1/11(3)	60	63	4,120	体育	
28	3	組織における情報の活	12	9/18~10/4(6)	120	39	4,120	社会情報	沼田外5名 藤江・中川外5名
		かし方	12	1/8~12/10(3)	60	54	4,120	体育	
29	4	日本から見た外国・外国から見た日本 —ことばと文化—	21	10/6~10/27(7)	200	52	6,480	言語センター	大島他9名
30	5	外国人による集中ロシア語会話(前期)	12	6/25~7/8(6)	20	21	5,090	言語センター	外国人1名
		外国人による集中英会話(前期)	12	7/6~7/14(6)	20	21	5,090	言語センター	外国人1名
		転換期の企業と社会	8	10/12~10/15(4)	50	16	4,080	商学	渡辺(和)外3名
		環境問題	20	10/18~11/1(7)	70	19	6,100	一般教育	中川(勇)外6名+外部2名
		スキー講座	8	1/6,7(2)	45	45	4,080	一般教育	中川(喜)外5名
外国人による集中ロシア語会話(後期)	12	11/9~11/25(6)	20	11	5,090	言語センター	外国人1名		
外国人による集中英会話(後期)	12	11/10~12/1(6)	20	20	5,090	言語センター	外国人1名		